

出発式で東日本大震災の被災地復興支援への想いを語る鈴木雅巳代表（左から2人目）＝本巣市役所



東日本大震災の被災地復興支援を継続している本巣市の市民ボランティア団体「お互い様隊」（代表：鈴木雅巳タイヤンボップ早野社長）は22日、ハツシモ5tと富有柿6tを宮城県石巻市の仮設住宅に直送届けるため、本巣市役所を出発した。

（瀬見井芳信）

本巣のボランティア団体が6トン

トラック2台、出発式

鈴木社長の知人が仙台市を拠点に、宮城県内の仮設住宅に支援物資を届けるボランティア活動をしている。石巻市への支援が実現した。お互い様隊は本巣市の糸貫柿振興会（加藤泰一会長）や地元農家、市民有志で構成し、7月から毎週1回、野菜などを被災地に送る支援活動を続けていた。

鈴木代表と隊員12人は今、トラック2台に乗って24日までの2泊3日の日程で、石巻市内の仮設住宅10ヶ所を訪問して米と柿を贈った。

22日に本巣市役所で行われた出発式には、鈴木代表やメンバーや50人が出席。本巣市のおいしい米と柿を食べて元気になってもらいたい」とあいさつし、石巻市に向けて出発した。

鈴木社長の知人が仙台市

善意の富有柿、被災地へ



岐阜市の共販振興会と支援グループ

激励の手紙添える

東日本大震災の被災地の子どもたちを岐阜特産の富有柿で元気づけようという「支援グループ」岐阜・手と手（丹原真美代表）の呼び掛けに岐阜市かき共販振興会が応え、より抜きの高級柿の中から人數分の10入り23箱を無償提供。22日、同市下鶴崎JAぎふ黒野農産物流通センターで箱詰めをして発送した。

同グループは石巻益田がお手伝ひした。内藤会長は「今年の出来は今一つ現地に送った。内藤会長

災した中学と高校、計48校に県内12の中学校や高校などの協力で生徒が書いたメッセージを届けた。さらに厳しい冬を元気に乗り越えてもらおうと、益石市と同県大垣町の2幼稚園と児童館、2中学校、2仮設住宅に計11箱を寄贈。岐阜市内370軒の生産者が加わる同振興会も、辞退の2校を除く益石市の残る4中学校と1高校の人数分、約850個の無償提供を決意した。

この日、丹原代表や内藤信義共販振興会長らが大ぶりの柿を選んで箱詰め。懇意の手紙を添えて現地に送った。内藤会長は「今年の出来は今一つだが、お互いさま、日本人なら助け合いたい」と被災地に寄せる農家の想いを代弁した。（永井謙）